

サクライソウ *Petrosavia sakuraii* (Makino) J.J.Sm. ex Steenis

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 16。全国的に減少傾向の著しい希少な腐生植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は短く、多数の根がある。地上茎は高さ 7~20cm、細くて硬く、淡黄色、下部に多数の鱗片葉が互生する。鱗片葉は広卵形、長さ 2~5mm、鈍頭で膜質である。花期は 7 月、茎の上部の総状花序に、10~15 個の直径 3.5~4mm の花を上向きにつけ、花被片は 6 個、卵状 3 角形、内片は長さ約 1.5mm、外片は内片の半長、下部が漏斗状に集まる。雄ずいは 6 個で、内花被片よりやや短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：19 旭 (浜島繁隆 s.n., 2002-7-8, TNS)。

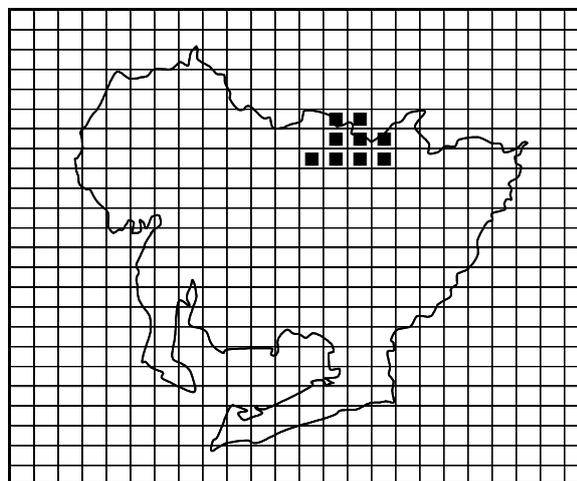
【国内の分布】

本州 (福井県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府) に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。現在生育している場所は造林地内らしいが、それが本来の生育環境とは思えないので、生育環境の階級は 3 として評価を行う。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

旭 (八幡) に県の天然記念物に指定されている自生地があった。しかしここでは、何回か探索したが発見できず、絶滅したと判断される。原因としては林床の乾燥化が考えられるが、はっきりしない。最近再発見された場所では、自然林に隣接した造林地内にかなりの個体数が見られるという。

【保全上の留意点】

現地状況を確認していないので、よくわからない。

【特記事項】

1908 年に岐阜県恵那山麓で桜井半三郎氏によって発見された植物である。岐阜県可児市の自生地は国の天然記念物に指定されている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.157, 平草本 I p.23, 平新版 p.140, 環境省 p.312, SOS 旧版 p.95.